

令和6年度朝霧野外活動センター指定管理者候補者選定委員会（2次審査） 議事録

日 時	令和6年10月7日(月) 午前9時30分から正午
場 所	県庁西館8階教育委員会議室
出席委員	松永委員長、松田委員、楠城委員、戸田委員、兼高委員、宮崎委員、 藤ヶ谷委員（委員7人全員出席）
事務局	社会教育課青少年育成班（小出班長、大塚教育主査、村田主任）

※2次審査は、プレゼンテーション、ヒアリングによる審査である。

<日本キャンプ協会グループ> ※プレゼンテーション 省略

ー ヒアリング要旨 ー

※委員長による代表質問と委員追加質問

（委員長）第4期の管理運営の経験から、第5期の改善点はあるか。または、今回の申請にあたり一番アピールしたいところは何か。

（申請者）第4期では利用人数が減ったため、利用者を増やしたい。利用者促進のために広報の仕方や周知、誘致の方法等を改善していきたい。

（委員長）利用者数確保のために、具体的にどのような広報活動、宣伝活動をしているか。またチラシ以外では何かあるか。

（申請者）インターネットを利用して、今まで自主事業等に参加したことのある人にダイレクトメールを送ってよいか確認をし、メールを送っている。主催事業に関しては、メールを送った人たちで、定員の2倍から3倍の申込みがある。

（委員長）新しい自主事業である「防災プログラム」の具体的な事業内容を教えてほしい。また、SDGsを意識した自主事業となっているが、具体的にどのようにSDGsと関連させて学ぶことができるのか教えてほしい。

（申請者）新たに防災キャンプという明確なメッセージを提供する。キャンプ事態が、野外で最低限の設備だけで生活を行っていくものなので、いざというときのあらゆるスキルを持ち合わせている。例えば「朝霧高原サマーキャンプ」の子供たちや災害のときに活躍するであろう大学生の「キャンプカウンセラー養成講習会」では、以前からそれらの視点が含まれていたが、特段防災というところには触れてはいなかった。子供たちの教育には、とても大事なものなので、いざというときに自分が持っているスキルは、災害のときに役に立つということを伝えていきたい。キャンププログラムの中にいろいろな要素が入っているため伝えていきたいと考える。

（委員長）SDGsを具体的にどのように関連させていくのか教えてほしい。

（申請者）「キャンプカウンセラー養成講習会」で行われるキャンプの中には、さまざまなSDGsの視点が入っている。今まではあまりそこには触れてきておらず、野外で指導していくためには、どうしたらよいかという視点で行

ってきた。今後は、SDGsの視点を入れてやっていきたいと思っている。キャンプでは自然環境、特に富士山の自然について学ぶ中でその富士山の自然を守る、後世に伝えていくということがどのような意味があるのか、またそれぞれの受講生が学んで地元を持って帰ったときに、地元ではどのように考えているのかなどについて話に触れるだけであったが、プログラムの振り返りの際にSDGsの視点で話合う機会を取り入れていきたい。事業では、生活が主になるので、性別で異なる役割がある。生活の中に色濃く出てくるため、プログラムに参加している子供たちや家族と考えながら見直してみたり、性別に関係なくやれることがあるのではないかと考え試したり、投げかけることをプログラムの中に明確に持ち込むことにより、さまざまなことが学びになるのではないかと考え、取り入れていきたい。

(委員) 朝霧の魅力の一つで雨天プログラムの充実とあるが、さらにクラフトなど新しい雨天プログラムの開発予定はあるか。

(申請者) 利用団体のニーズ、要望もあると思う。それらを真摯に受け止め開発していくことが大切である。具体的に今これをというのはないが、社会の中でこんな内容の室内活動を取り入れられているという情報を集めながら増やしていきたい。

(委員長) ナヴィゲーションスポーツについての提案があったが、提案書にあまり載っていないのはなぜか。

(申請者) 第3・4期では一番に入れていたが、第5期は最後に入れた。10年間の成果をここに書ききれなかったため、別紙とした。

(委員長) 今回の申請は、第4期の申請時よりも、所員の数が減っているが、朝霧野外活動センターの管理運営上、人数は足りているのか。また、働き方問題の視点からを見ると、特に繁忙期の所員の健康管理への配慮はどうしているのか。

(申請者) 現在の所員数で次期も提案している。第4期に提案した際に、人数が集まらなかったため、今の人数となった。また働き方改革の視点からでは、厳しい状況ではあるが、第4期の提案と違い、第5期では、休所日を増やしている。月曜日休所日を原則としているが、8月は少年団体の利用も多いため、土日をまたがって利用する団体もあり、8月は休所日を設けていない。一方それ以外の月では、月曜休所日としている。職員の労働環境を考えた運営を行っていく。

(委員長) 経費削減への取組みについて、老朽化が進んだ施設で具体的にどう進めていくのか。

(申請者) 年月が立つほど老朽化していくため、修繕が増加するが予算の制限もあり難しい。令和4年度に県が劣化診断を行い、今後の修繕の計画を立ててくれたが、県も予算があるため、全て行うことは難しいだろう。一方で協会が対応できる修繕は対応していくが、全体の修繕については、県と一緒に相談していきたい。

(委員長) エの②で、類似施設の運営実績なしとあるが、朝霧のほかに参考になっている施設等はあるか。また、日本キャンプ協会グループの構成団体は、いろいろな事業を展開しているが、そこで得たノウハウを朝霧野外活動セ

ンターの運営管理でどのように活かしているか。

(申請者) 日本キャンプ協会の理事や常任理事は、朝霧をキャンプで利用しており、大学生を連れてきたり、事業の講師をしたりとここでやっているプログラムを 30 年くらい前から実施している。一緒にキャンプをやってきた日本キャンプ協会理事の大学の先生方から、ノウハウをもらってそれを今の経営に活かしている。私たちがやってきていることは、日本キャンプ協会の理事から教えてもらったことであり、それが県内に広まっている。

(委員長) どちらかという発信源であり、中心的な役割を担っているということか。

(申請者) 朝霧のナビゲーション構想という感じで全体が動いている。

(委員) 他県で申請をされたことがあるか。また、これからの日本キャンプ協会の取り組みのイメージや他県ではあまりないという取り組みになっているのか教えてほしい。

(申請者) 過去に照会されたことは他県ではある。しかし今は朝霧の管理運営だけで手一杯なため、ほかに県内で打診されてもなかなかできない。今後、代表団体として日本キャンプ協会が、ほかの指定管理を取りに行くかどうかは、全国の理事を集めて会議を行わなければいけない。

日本キャンプ協会としては、この静岡県をモデルとして 18 年間活動してきた。フロンティアアドベンチャーに参加した若者たちが、静岡県キャンプ協会など構成団体 3 団体の中核を担っている。この事業から育ってきた人たちが、自分たちで事業運営を行っていて、長い期間事業をサポートしている。これは他県にはないと思う。ここまで人を育て施設を維持し、さらに次の若者を育てていくという循環型は、他に類を見ないものだと思う。今回の朝霧の提案については、1 年半前から協議しながら、次期の指定管理はどうしていくのか、発表している内容について検討してきている。今後もしかしたら、朝霧の指定管理のパターンについて文章を作り、他に提供できないか検討していくかもしれない。

(委員) 日本キャンプ協会としては、指定管理をしているわけではないが、キャンプ協会を構成している方々がいろいろな施設の運営に携わっていて、キャンプ協会の中でそのノウハウを持ち寄っているという解釈でよろしいか。

(申請者) そうである。

(委員長) 個人情報について、サイバーセキュリティなどの対策はどう進めていくのか。

(申請者) 電子媒体については、現在施設の中にあるサーバーに集中的にデータを集め管理している。そこにはウィルス対策やセキュリティ対策のソフトを入れており、外部の方が基本的に入れられないようになっている。施設の利用団体用の LAN 設備を整えたがそれとは別にしている。もしかしたら今のセキュリティでは対応しきれない可能性もあるかもしれないので、専門家をお願いすることも検討していく。申込みもネットになってきたので、これからどうしていくのか考えていく。

(委員長) 地震や富士山の噴火の際、所の対応について、具体的に教えてほしい。

(申請者) 事故災害マニュアルがある。3 冊あって、「野外活動実施時」「嘔吐発

熱対応」「安全対策マニュアル」に沿って所員も利用団体も動けるようにしている。富士山噴火の対応についても記載している。地震で津波の心配はないが、地震があったとしても、利用者に被害があれば、避難場所も書いてある。利用者が住まいの地域に地震がおきて帰れないということがあれば、留め置きができるように非常食や備蓄品の保管もしている。

(委員) 台風や大雨の対応について、マニュアルはあるのか。

(申請者) 避難的なことは一緒であるが、大雨については、天気予報を見ながら、利用団体と相談してプログラムを実行するかしらないか、短縮して帰ってくる経路も伝え、今日はやめたほうがという助言をする場合もある。以前台風で、10本くらい木が倒れたときがあったが、キャンプ場とは離れていて、コロナ禍で利用者がいなかったときに片付けを行った。天気予報を確認しながら、利用団体へ進言し決行の判断を行っている。

(委員) 今から来ない方がいいとか、今から帰るのはやめたほうがいいとかなどの進言はされているのか。またはその場合の受入れ体制があるのか。

(申請者) 来るか来ないかは学校で判断をお願いしており、こちらからは言えない。来た場合は、活動プログラムについて、団体の目標に合わせたり、学校の先生方の希望に添うようにプログラム変更したり相談に乗る。利用者として、大学生と利用した際に富士山の特有の天候で、一時的に集中豪雨が降るといふときがあった。キャンプサイトと職員のいる施設が直接連絡を取ることができるようになっていたため、情報をもらって判断した。また、ひどいときは、スケート場に100人くらい退避して一晩泊まるなど、職員と連携して対応したこともある。自然の脅威は体験してみないと分からないということもあるが、いざというときは職員の方が対応できるようになっている。

(委員長) 利用者が身近にマニュアルを見ることができるようになっているか。例えば、ラウンジに置いてあるなど。

(申請者) マニュアルは常に整備を行い、マニュアルを所員と確認し、利用団体にお見せしている。この間地震注意報の際も所員に集まってもらい、営業は通常通りであったが、何かあったときにすぐに避難できるように、避難経路の確認と備蓄品の確認、常に情報についてアンテナを高くしていた。利用者団体がいたので、利用者団体とも話をして、意識を高めていくということが大切であると思っている。そのため、身近に置くことは、今すぐに取り組んでいきたい。

(委員長) 危機管理として、例えば毒ヘビに、利用者団体の参加者が、かまれた際はどうか対応するのか。また、毒ヘビ等の害虫への対策はどのように進めていくか。

(申請者) 害虫対策については、ハチ、アブ、クマ、鹿対策については、冊子に載せてある。ヘビ対策については、ヘビ類は人を見ると逃げてしまうので、あまり考えていなかった。早急に取り組んでいきたい。

【ヒアリング後の採点結果】

ア:① 9点 ② 8点 合計 17点
イ:① 4点 ② 4点 ③④ 4点 ⑤ 4点 合計 16点
ウ:① 8点 ② 8点 合計 16点
エ:①② 8点 ③④ 8点 合計 16点
オ:合計 16点
総合計 81点。

— 協 議 —

○ア「県民の平等な使用の確保とサービスの向上が図られること」についての評価

(委員) 基本方針など、丁寧に全部説明してくれた点を評価した。

(委員長) 基本方針や教育目標を変えないのはいいと思うが、現在の社会変化に対応した施設運営をどう捉えているのかと言ったとき、もっとシビアな見方で目標を設定していかないと運営が甘くなってしまうのではないか。今日の話聞けば、本当に他に類を見ないキャンプ指導ができる素晴らしい場所であるし、広く県民の方にも知っていただき静岡県の誇る朝霧野外活動センターにしていくには、目標設定や捉え方はとても重要になってくると思う。

(委員) 私も「教育目標は18年間継続しています」というところが気になった。今は「令和の日本型教育」や「社会総がかりで」といった言葉になってきているが、更新されていないと感じた。

(委員) 教育委員会が示した教育目標に対して十分だと思う。いい内容だった。

(委員長) それでは、アは協議の結果17点とする。

○イ「施設の効用を最大限に発揮できる事業計画であること」についての評価

(委員長) イは協議の結果16点とする。

○ウ②「経費縮減に関する提案」についての評価

(委員) 財務的には、なんとかやっていただけと思う。

(委員長) ウ②は協議の結果8点とする。

○エ「事業計画に沿った管理運営を安定して行う能力を有していること」についての評価

(委員) 類似施設の運営実績がないということであったが、プレゼンで説明していただいたので、点数を上げた。

(委員) 個人情報の取り扱いに対して、明確な回答はなかった。

(委員) 対応について不安を感じた。頻繁にメールを使用しているため、ウイルスに感染するといった被害に合わないか心配である。

(委員) はっきりとした対策を言ってなかったので点数を下げた。

(委員長) 広報をメール実施するということで、人を呼び込む手段として、そこを上げていくとなるとセキュリティレベルを上げていかないといけない。

(委員) 一流の企業でもハッキングされる時代である。教育委員会と一緒に取組んでいったほうがよい。

(委員長) エ③④は協議の結果7点とし、エの合計は15点とする。

○オ「施設の運営管理・事業の実施に当たり、安全管理体制を十分に整えられるものであること」についての評価

(委員長) 地震については、ある程度備蓄もあるということでそのままにした。

(委員) ヘビもそうだが、あんまり認識はなかった。マニュアルの説明でも、マニュアルを作ればいいということでとどまってしまった気がする。そのため点数を下げた。

(委員長) オは協議の結果 16 点とする。

【協議後の採点結果】

ア:① 9 点 ② 8 点 合計 17 点

イ:① 4 点 ② 4 点 ③④ 4 点 ⑤ 4 点 合計 16 点

ウ:① 8 点 ② 8 点 合計 16 点

エ:①② 8 点 ③④ 7 点 合計 15 点

オ:合計 16 点

加点:3 点

総合計 83 点。

【総括】

(委員長) 申請者への意見や要望をお願いしたい。

(委員) 前回同様、長年の指定管理者としての実績や経験を活かして、安定した運営事業を継続展開していこうとする姿は評価できる。

(委員) 今回はナビゲーション野外活動を強調していたように思える。

(委員長) やはり日本でも稀に見るキャンプのノウハウを次世代に伝えていく役割を担っており、その安定した運営のもとにプログラムを継続して行うことで、そこで育った子供たちが、キャンプ協会グループを支える 3 団体で活躍している。それはすごいことであると思う。日本キャンプ協会も他のところで実践されている先生方のノウハウを共有し、朝霧で相互に活かし、日本のキャンプ教育が出来上がっていることが想像できた。そういう意味では非常に重要な拠点であり、キャンプ協会で、管理運営する中でさらにセンターの価値を上げてほしい。

(委員) 魅力的な事業の項目で、一つは朝霧まんきつキャンプという新規事業では、防災キャンプの視点で取り組んでくれること。もう一つは朝霧高原ホッとキャンプで、不登校や引きこもりがちな青少年のキャンプを、キャンプカウンセラー協会の人たちと一緒にっており、この社会ではますますニーズがあると思うので、進めて行ってほしい。

(委員) 課題としては、個人情報取り扱いでサーバーの管理である。

(委員長) 教育の中で求められてる防災教育や多様性に応じた教育、不登校やインクルーシブ的な教育、誰 1 人取り残さないなど、その教育実践の場として朝霧は重要であり、学校でやればよいという問題ではなく環境として整えるべきである。その拠点として朝霧は重要であり、指定管理者だからこそこできるプログラムを考え、講座を作り実践していく提案は非常に評価できる。教育活動として、静岡県の教育やこれからのキャンプ教育という意

味でも拠点であり、これだけ重要な場であることが理解でき、教育的ニーズを満たす環境と機会を提供できていると感じた。

(委員長) 要望としては、危機管理意識を向上させてほしい。マニュアルを作っ
て終わりという感じを受けた。すごく参考になるものを作っているのに、
残念である。

(委員) マニュアルの内容を周知するための工夫が必要である。

(委員長) 抜き打ちで防災訓練をするなど、マニュアルに沿ってできているかど
うか検証できるように訓練の方法も工夫してほしい。

(委員長) それでは、日本キャンプ協会グループを朝霧野外活動センターの指定
管理者候補者とする。

— 教育部理事挨拶 —

— 閉 会 —